

Study of the Muzzle Flashes of Explosives
by means of High Speed Cinematographic Camera (I)

by Teizo Okawa

The muzzle flashes of TNT, black powder, gelatine dynamites, and ammonium dynamites expelled from the muzzle of the mortar were photographed by means of a 16 mm high speed cinematographic camera in the speed of 4500~5000 frames per second. These photographs were reported.

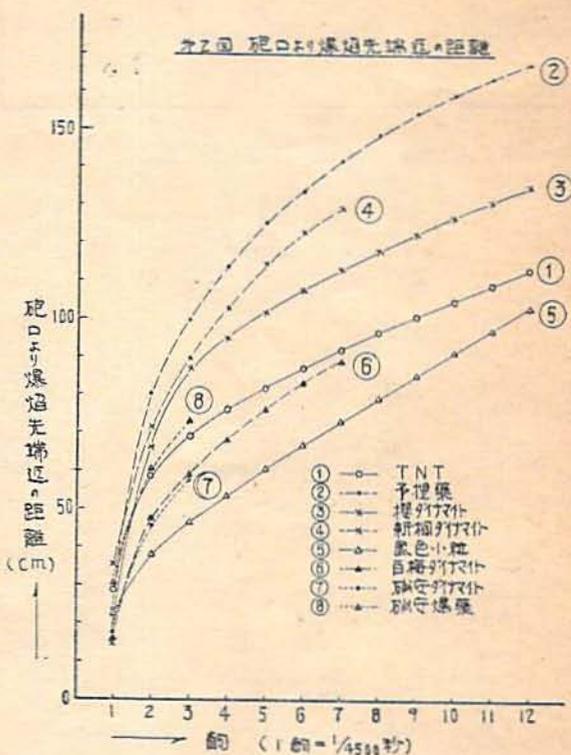
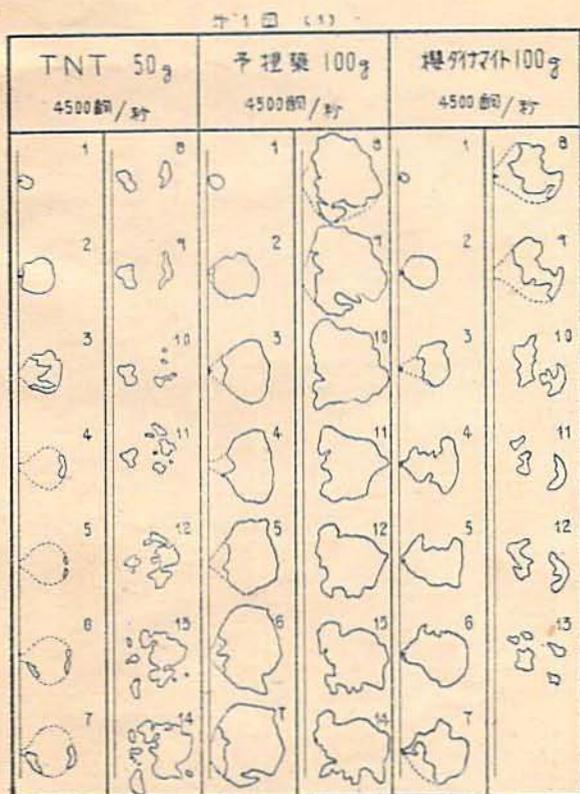
(Asahi Chemical Industry Co., LTD. Nobeoka Factory)

第2報 各種爆薬の臼砲による爆焰の噴出及び進行速度

1. はしがき

第1報に各種爆薬の臼砲による爆焰の高速度撮影写真を報告したが、本報ではこれらの画面より算出した爆焰の砲口よりの噴出速度、進行速度を報告する。

の値より噴出速度、進行速度を算出した。これらの結果は第1表(1)~(8)及び第2図第~5図に示した。また、第1表中には爆轟ガスの噴出による発光とみられる砲口における光輝の認められる箇所に○印をつけた。なお、第1図に高速度撮影により撮られた爆焰の形



2. 計算方法及びその結果

第1報に報じた高速度撮影写真の各箇所に就いて、砲口より爆焰先端迄の距離、爆焰の面積を測り、それら

状の変化を前報の写真より複写して載せた。

第2表は第1報の静止写真より測った爆焰の面積である。

第1表-(2)- 黒色小粒火薬 (50g)

筒	砲口より 爆焰先端 迄の距離 (cm)	大筒と の差 (cm)	爆焰 速度 (m/sec)	行 速度 (m/sec)	爆 焰 積 積 (cm ²)	砲口に於 ける光輝 の有無
1	23.0				2.0×10 ²	○
2	38.0	15.0	680		10.4	黒 色 の 火 が 見 は ら れ る
3	46.5	8.5	380		16.9	色 の 火 が 見 は ら れ る
4	54.0	7.5	340		23.6	色 の 火 が 見 は ら れ る
5	61.0	7.0	320		29.4	色 の 火 が 見 は ら れ る
6	67.5	6.5	290		33.9	色 の 火 が 見 は ら れ る
7	73.5	6.0	270		41.2	色 の 火 が 見 は ら れ る
8	79.5	6.0	270		44.0	色 の 火 が 見 は ら れ る
9	85.5	6.0	270		46.3	色 の 火 が 見 は ら れ る
10	91.5	6.0	270		49.5	色 の 火 が 見 は ら れ る
11	97.5	6.0	270		55.0	色 の 火 が 見 は ら れ る
12	103.5	6.0	270		58.6	色 の 火 が 見 は ら れ る

第1表-(3) 予報薬 (N/G95-C/G5) (100g)

筒	砲口より 爆焰先端 迄の距離 (cm)	大筒と の差 (cm)	爆焰 速度 (m/sec)	行 速度 (m/sec)	爆 焰 積 積 (cm ²)	砲口に於 ける光輝 の有無
1	29.0				5.8×10 ²	○
2	80.5	51.5	2320		50.0	○
3	100.0	19.5	880		83.6	○
4	114.0	14.0	630		96.0	○
5	125.5	11.5	520		105.5	○
6	134.5	9.5	430		116.4	○
7	142.0	7.5	340		117.4	○
8	149.0	7.0	320		129.3	○
9	154.5	5.5	250		135.6	○
10	159.5	5.0	230		139.8	○
11	164.0	4.5	200		141.5	○
12	168.0	4.0	180			○

第1表-(4) 桜ダイナマイト (100g)

筒	砲口より 爆焰先端 迄の距離 (cm)	大筒と の差 (cm)	爆焰 速度 (m/sec)	行 速度 (m/sec)	爆 焰 積 積 (cm ²)	砲口に於 ける光輝 の有無
1	14.5				1.7×10 ²	○
2	66.0	51.5	2300		29.0	○
3	87.0	21.0	950		45.7	○
4	95.5	8.5	380		71.5	○
5	102.0	6.5	290		78.0	○
6	108.0	6.0	270		78.5	○
7	113.5	5.5	250		87.7	○
8	118.5	5.0	230		88.5	○
9	123.0	4.5	200		74.5	○
10	127.5	4.5	200		72.9	○
11	131.5	4.0	180		67.7	○
12	135.5	4.0	180		64.5	○

第1表-(5) 新樹ダイナマイト (100g)

筒	砲口より 爆焰先端 迄の距離 (cm)	大筒と の差 (cm)	爆焰 速度 (m/sec)	行 速度 (m/sec)	爆 焰 積 積 (cm ²)	砲口に於 ける光輝 の有無
1	35.5				8.7×10 ²	○
2	71.5	36.0	1620		33.3	○
3	89.5	18.0	810		51.5	○
4	103.0	13.5	610		58.5	○
5	113.5	10.5	470		67.3	○
6	122.0	8.5	380		72.3	○
7	128.5	6.5	290		69.7	○

第1表-(6) 白梅ダイナマイト (100g)

筒	砲口より 爆焰先端 迄の距離 (cm)	大筒と の差 (cm)	爆焰 速度 (m/sec)	行 速度 (m/sec)	爆 焰 積 積 (cm ²)	砲口に於 ける光輝 の有無
1	16.0				4.6×10 ²	○
2	47.5	31.5	1420		16.2	○
3	59.0	11.5	520		23.4	○
4	68.5	9.5	430		28.7	○
5	76.5	8.0	360		37.1	○
6	83.5	7.0	320		41.6	○
7	89.5	6.0	270			○

第1表-(7) 硝安ダイナマイト (100g)

砲	砲口より 砲薬先端 の距離 (cm)	次 の 差 (cm)	爆 行 速 度 (m/sec)	爆 面 積 (cm ²)	砲 口 に 於 ける 光 輝 の有 無
1	17.0	29.0	1300	2.2×10^2	○
2	46.0	12.0	540	10.3	
3	58.0				

第2表 各種爆薬の爆面面積 (静止写真)

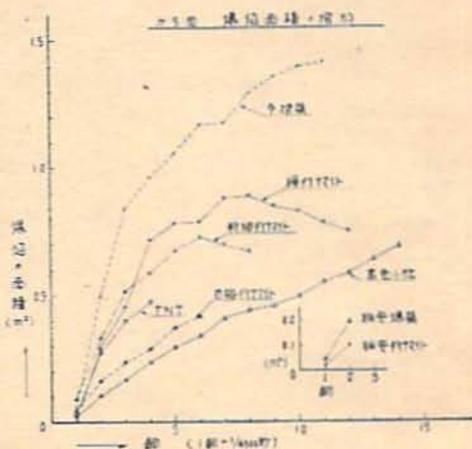
爆 薬	薬量(g)	面積(cm ²)
TNT	50	307.5×10^2
黒色小粒	50	334.4
桜ダイナマイト	100	169.4
新樹ダイナマイト	100	167.7
白梅ダイナマイト	100	62.0
硝安ダイナマイト	100	19.2
硝安爆薬	100	19.5

3. 総 括

(1) 爆轟ガスは 2300~1300m/sec の高速度にて砲口より噴出するが、急激に(1ミリ秒以内)に速度は減少し、その進行速度は 500~300 m/sec に低下する。TNTの第2次爆の進行速度は最大 560 m/sec 附近である。

第1表-(8) 硝安爆薬 (100g)

砲	砲口より 砲薬先端 の距離 (cm)	次 の 差 (cm)	爆 行 速 度 (m/sec)	爆 面 積 (cm ²)	砲 口 に 於 ける 光 輝 の有 無
1	30.5			4.4×10^2	○
2	60.5	30.0	1350	18.9	
3	73.5	13.0	590		



(2) 砲口よりの噴出速度は、爆速の異なるもの程大きい。

(3) 爆轟ガスの噴出持続時間は案外に長く、例えば桜ダイナマイト、新樹ダイナマイトでは、第1報の高速度写真で8駒(1.8ミリ秒)附近まで砲口に光輝が認められる。

Study of the Muzzle Flashes of Explosives by means of High Speed Cinematographic Camera (II) by Teizo Okawa

Jetting velocities of the exploded gases of TNT, black powder, gelatine dynamites, ammonium explosives from the muzzle were determined by the high speed photographs in the previous report.

Exploded gases jetted out of the muzzle at the speed 2300~1300 m/sec and dropped rapidly (within 1 milli-second) to 500~300 m/sec.

Velocities of these samples were almost parallel to its detonation velocity.

The maximum propagation velocity of the second flame of TNT was 560 m/sec.

The glow at the muzzle due to the jetting of exploded gases continued for rather long time, e. g., in case of Sakura and Shingiri-dynamite (gelatine dynamites), observed for 1.8 millisecond (eight frames in the photographs).

(Asahi Chemical Industry Co., LTD. Nobeoka Factory)